

「『赤ちゃん ポスト』設置問題を、どうお考えですか？」へのコメント

当HP「『赤ちゃん ポスト』設置問題を、どうお考えですか？」の記事にコメントをいただきましたので、参考までに紹介します。

更に、いただきましたら、随時当ファイルを追加・更新します。

追伸：4/17産経新聞の「明解要解」欄に、「『赤ちゃんポスト』の先例 ドイツ 一目に見える効果薄く国論二分一」が載りましたので、4Pに貼付していますので、参照ください。

2007. 4. 18. 阿部幸泰

⑤赤ちゃんポストの記事が今日も出ていましたね。

赤ちゃんポストがあることで、気持ちが楽になる親はいるのですが、そのことを抱えて生きていく子どもの気持ちはなんら変わらないんだろうと阿部さんのおっしゃるように思います。

そこで、救われる命。

でも、その命の葛藤はその子ども自身が解決するほかはないんですものね。

産みの親は、子どもが葛藤している場面にはいないんですから、なんだか子どもばかりが生きにくさを抱えるようで、疑問が残ります。

④こうのとりのゆりかご、こんな方法もあったんだ～と当初思いましたし、画期的で素晴らしいとも思いました。

闇に葬られるよりは・・・と思いましたが記事を読むとなるほど、こんな問題点もあるんだと思えましたね

まず、一步を踏み出して、問題点があればみんなで話し合っただけで改定していくことが大切なのようにも思いますね

ゆりかごに自分の子供を入れるということは断腸の思いの人もいれば、肩の荷がおりたと感じる人もいると思う。

これまで新生児が捨てられて死亡していた事件多々あったと思うが、それに対して何か分かりやすい対策がとられてきたのだろうか。

こうのとりのゆりかごは、何かを考え、何かを変えるきっかけとなって欲しいと思いました。

③「赤ちゃんポスト」設置問題のページ、拝見させて頂きました。

ニュースでは見ていたのですが、内容自体がショックでした。

設置を検討しているということは、設置を必要とする状況がそれなりにあるということだと感じたからです。

個人的な感想として、賛成でしたが、疑問に感じたのはページの中で書かれていた高校生と同じでした。

親は「匿名」ではなく、名前等の情報を知らせるべきだと思います。

子どもの人権を考えた時に、親の情報はすごく重要なものだと思います。

「望まれない」なんて悲しい状況が無いのが一番だとは思いますが、現実には、いるんですね。すごく切ない事。

私は高校、短大と女子校だったのですが、学生時代に妊娠、中絶を経験する友人が何人かいました。(もちろん生む為に退学し結婚する人もいましたが)

そんな話を聞くたびに複雑な気分になりました。

子どもを授かるという事を簡単に考えているのかなあ・・・と。

でも本当は違いました。

妊娠したのが分かった時は一瞬でも嬉しいと思った。

でもその時の自分、相手の状況等を考え「生まない」事を選んだ・・・

中絶を経験した友人は皆悲しんでいました。

誰も妊娠、中絶を簡単に考えている子なんていませんでした。

でも「生む」事を決めたのに置き去りにする人もいる・・・。

産婦人科の医師不足が問題になっていますが、妊婦を支えるのしくみも課題なのではと考えます。

なんだか話がそれたり、長文になってしまいすみません。

考えているうちに長くなってしまいました。

私はまだ親ではないのですが（相手もいない・・・(T o T)）

そうなった時にまた思い出すでしょうね。

②赤ちゃん ポスト、感覚がざわざわするんです。そのネーミング。ヨーロッパの文化言語だと思っても。

ポストの意味はコミュニケーションを約束する手段道具。命を繋げ託すといふ意味でしょうが…。

貴方の HP では、固有名詞との間を一文字間隔がありますが、確か原文はなかったと。

その間合いに意味を考えています。空けたのと空けないのでは、感じが違うなあ〜と。

①赤ちゃんポストのことで私が思うこと。。。。

私はやはり反対です。確かに命は優先されるものでありますが、ポストを設置した故に、命の重さを人は軽く考えるようになってしまうのではないのでしょうか。

誰かを愛し、その証といえるこども。そのことがだんだん忘れさらられていくのではと心配です。

まずはポストなどと考える前に、国や地域の子育て支援をもう一度見直すべきだと思います。

苦しいときに手を差し延べてあげることができる社会。助け合いながら、支えあいながら、こどもは育ち、また親も学んでいくもの。

こどもにとって一番良い環境はやはり自分の家族しかないのではと考えます。

話は変わりますが、いつもこのように考える場をつくって下さり感謝の気持ちでいっぱいです。

先生のメールが来る度に、こどもと向き合うことを考えさせられます。

また、自分とは違う考えの人の意見も聞けて視野が広がるような気がします。

これからもご指導よろしく申し上げます。



日本で今、「赤ちゃんポスト」をめぐる賛否両論が渦巻いている。同様の制度はドイツでは7年前から始まっており、ポストの設置場所も徐々に増えている。先達のドイツで制度運用の現状と問題点を探った。

(ベルリン 黒沢潤)

ドイツでの「赤ちゃんポスト」第1号は、2000年に北部のハンブルクに設置された。現在、ポストは国内約80カ所に設けられ、年間、30〜60人の赤ちゃんが保護されているという。

そのひとつ、首都ベルリンの閑静な住宅街にある聖ヨゼフ病院の「赤ちゃんポスト」を見せてもらう。大きさは縦約50センチ、横約80センチ、奥行き約60センチで、中の温度は季節によって20度から25度に設定されている。

建物外壁のポストの扉が開けられて、中に赤ちゃんが置かれると、1分後にアラームが鳴り、看護師らに知らせるという仕組みになっている。設置されている監視ビデオは、赤ちゃんだけが映る角度に据え付けてある。親の匿名性を保証するという配慮からである。

ポストに置かれた赤ちゃんへの対応は州によって異なるが、ベルリンなどでは警察に届けた後、「里親協会」が8週間、赤ちゃんの衣食などの面倒を見る。

## 「赤ちゃんポスト」の先例 ドイツ



その間、協会に登録している里親に引き取られ、実の親が1年以内に名乗り出なければ、養子縁組が正式に決まる。1年以上たって名乗り出た場合でも赤ちゃん

にするなど、先駆的例とされているドイツの「赤ちゃんポスト」も、同国内の評価は二分している。

今月上旬にも活用促進キャンペーンを展開した賛成派の政党「90年連合・緑の党」の女性ベルリン市議、アンヤ・コフビンガー氏(47)はこう強調する。

「心に重大な病いを持つ女性や外国人の違法滞在者らは、当局や民間カウンセラーなどに相談しづらく、思い余って赤ちゃんを手にかける可能性もある。孤立した女性たちにとって、ポストは重要な意味を持つ」  
 もっとも、「赤ちゃんポ

「赤ちゃんポスト」を見せられるベルリン・聖ヨゼフ病院のリヒンスキ看護長

スト」が初めて導入された2000年以降も、殺人や放置などで赤ちゃんが死亡する件数は毎年、20人前後と減少する兆しはない。今年1月には、ベルリン南部にあるポストから200歳離れたバス停に赤ちゃんが放置されており、設置の効用を疑問視する声もある。

キリスト教民主同盟(CDU)のベアトリクス・フライップ連邦議員は「ポスト設置が、需要を生む逆説を生じさせている可能性もある。国家の了解の下で『捨て子』の世代が着実に増えている」と憂える。

確かに、ポストには、身体障害児や生後3カ月以上の赤ちゃんが置かれるケースも少なくないといわれ、里親が引き取りにくい状況も生まれているようだ。

独フンボルト大(ベルリン)のアルフレッド・ウォルフ教授(家族法)は、「『赤ちゃんポスト』の制度では、出産の事情が明らかになることはないため、レイプによる妊娠といった重大な犯罪行為が隠される恐れも否めない」との問題点も指摘している。

## 明 解 要 解

んを引き取ることは可能だが、今度は所得や家庭環境などに関し厳格な審査を経なければならず、取り戻すのは容易ではない。

熊本市の慈恵病院が参考

## 目に見える効果薄く 国論二分

一線記者がニュースの背景にせまり、わかりやすく解説します。読者の質問、疑問にもお答えします。  
 ファクス03・3242・7745か、Eメールでspecial@sankei.co.jpへ。